

岩手県職労

月2回刊=1522号
 2018年12月15日 発行
 発行日 毎月15日30日
 発行所
 盛岡市内丸10番1号
 岩手県庁内
 岩手県職員労働組合
 印刷所
 盛岡市上田二丁目17-4
 有限会社 ジロー印刷企画
 一部 40円
 組合員購読料は組合費に含む

職員の希望を踏まえた人事異動を！

2019年度定期人事異動に係る要求書提出

早期内示へ人事課総括課長の基本姿勢質す

12月13日、県職労は2019年度定期人事異動に係る要求書を佐藤人事課長に提出し、早期内示・本人希望の尊重を中心に交渉を行った。佐藤人事課長は職員のモチベーション維持の観点で作業を進めるとの基本姿勢を示した。県職労では早期内示、本人希望に沿った異動に向け取り組みを強化する。



▲早期内示・職員の希望に沿った人事異動を求める交渉団 (右下は人事当局)

①早期内示

現時点で内示日は示せないが、一定程度の週休日を確保することを求め、出来る限り配慮するとした。交渉団から住居確保や転校・入園等の手続きが困難であるとの職員実態を訴え、早期内示を強く求めた。

②沿岸地区への配慮

依然として住宅事情は厳しいとし、異動に当たってはそれぞれの業務の状況や家庭事情もあることから、



要求書を手渡す小野委員長 (右)

③本人希望の尊重

身上調書の内容をもとに本人希望や家庭事情、単身赴任の状況等を把握するとともに、組合からの情報も得ながら検討していくとし、出来る限り家庭事情等を考慮した配置に努めるとした。交渉団から、人事異動は重要な勤務・労働条件の変更に当たるとし、本人希望を最優先するよう強く求めた。

④赴任旅費の改善

移転料の算定見直しや対象費用追加は、旅費制度全

⑤育児代替職員の配置

「育児支援シート」等をもとに把握し、対応を検討とした。交渉団から、両立支援の観点での対策が不可欠とし、実現を強く求めた。

2019政治決戦/政治を変えるチャンス

推薦候補者(予定)紹介

- 参院選 **吉田ただとも** (社民・比例)
- 県議選 **小西 和子** (社民・盛岡)
- 佐藤ケイ子** (自治労県本部組織内・北上)



前参議院議員 (社民党比例代表) **吉田ただとも**



岩手県議会議員 (社民) **小西和子**



岩手県議会議員 (自治労県本部組織内) **佐藤ケイ子**

2019年度は12年に一度の参議院議員選挙と各自治体議員選挙が重なる重要な政治決戦の年となる。参院選(比例区)では、「吉田ただとも」(社民民主党前党首・元1期)を推薦

決定。吉田さんは、大分県出身。憲法を活かし、平和な社会の実現、働く者をはじめ生活者視点での政治の実現を公約に掲げている。県議会議員選挙のうち、盛岡選挙区は「小西和子」

(社民党・現3期)を、北上選挙区は「佐藤ケイ子」(現1期)を推薦決定。両県議選と県職労とは、県議会定例会前に協議の場を設け、職員の処遇改善などの諸課題について、県議会で改善

を求めてきた実績がある。推薦候補者の勝利に向け、組合員及びご家族の支持浸透をお願いする(県議会他選挙区・各自治体議員選挙の推薦候補者は、決定次第、組合員にお知らせする)。「災」ということわざもある。「災」の教訓は新たな展望のもと、よりよい生活・社会としていくための足掛かりとなる。来年の漢字が「災」から「福」に転じるため、あらゆる運動で正念場の年を迎える。

満期金に万一の保障をセッ

親子共済は、お子さまの高校卒業年度に「満期共済金」、万一年の場合に「共済金」をお受取りいただける制度です。



じちろうの親子共済
 自治労共済本部
 ●詳しくは所属する組合まで

「佐高信」文化塾

安倍政権は民権軽視・国権主導の政治思想

佐高氏が政権姿勢を厳しく追及



佐高 信さん

12月1日、平和環境県センターで佐高信文化塾を開催し、「国権と民権」と題して佐高信塾長が講演した。佐高塾長は、過去の自民党会派には自由民権運動を系譜とする民権派とそれを望まない国権派があり、民権派が主流であったものが小泉首相の誕生以降、国権派が主流となり、今の横暴な安倍政権となったと経緯を振り返った。その上で、言葉は思想そのものである

と指摘し、安倍首相が米国会に招かれた際に、英語でスピーチしたことを厳しく追及。米国屈従を示した安倍首相のニセ国権主義の象徴と見るべきと指摘した。かつて、安倍首相は、「権力は行使するため」と公言。権力は抑制的とするべき考えから乖離し、かつ憲法を変えて戦争することを考えている言動もあつたと紹介。安倍首相は米国屈従の外交姿勢の一方、美しい国日本と唱える民権思想が欠如した、国権が空っぽの「たらしめな政治」と指摘。政権が国民不在、虚構に満ちた政治に成り果てていると訴えた。

第五世代

今年の漢字は「災」と決まった。大阪北部、西日本豪雨、北海道胆振東部地震と災害列島を象徴する漢字で、まさに1年を象徴するものを。東日本大震災から8年を迎えるが、災害から得られる課題はいつになってもとどまる所を知らない。それだけ災害への備えや対策は生活に密着し、向き合わなければならない課題でもある。11月1日の欠員は83人。大阪府の派遣職員の引き揚げ等によるものだが、当県として主体的に人材確保を進めるなどの一層の対策を進める必要があることは明らか。「災」と言えば、政治情勢も混迷を極めた。昨年の国難突破解散を経て、結果として安倍政権による国民軽視の政治が続く。先の臨時国会でも民間参入を促す水道法や外国人労働者を拡大する入管法が强行成立したが、生活者視点での改善は先送り。これこそ国民にとって安倍政治は「災」だ。一方で、「災」転じて福となす」ということわざもある。「災」の教訓は新たな展望のもと、よりよい生活・社会としていくための足掛かりとなる。来年の漢字が「災」から「福」に転じるため、あらゆる運動で正念場の年を迎える。

久慈支部・独自要求で振興局長交渉

花巻・一関支部も庁舎管理者に独自要求書提出

【久慈支部】

組合員アンケートで要求事項を集約し、「支部独自要求書」を作成・提出のうえ、12月7日に交渉を行った。

南県北局長交渉では、十分な人員確保と慢性的な超過勤務解消、更には公舎確保



▲南局長に独自要求書を手渡す藤本支部長(左)



▲要求書を手渡した後、交渉を行う久慈支部執行部(左)



▲菊池花巻総務センター所長と交渉する花巻支部(左奥が伊藤支部長)

費に係る移転料基準額が実態を反映していない可能性について、人事課にも伝える」との基本姿勢を引き出した。

庁舎・公舎の環境改善を柱とする佐藤経営企画部長交渉では、「庁舎修繕については、予算要求をしながら優先順位の高いものから行っている。各公舎の要望8件のうち、修繕終了が4件、2件は間もなく修繕予定。できるだけ要望に対応していく。公舎修繕は枠配予算の活用や管財課への要望を通して改善に向けて対応」との回答を引出した。

徐々にはあるが、要求項目の改善が実現できており、引き続き組合員の要求に立脚した要求交渉を進めていく。

【花巻支部】

老朽化した庁舎内設備の

改修や公用車駐車場の区画拡張を柱とする独自要求書に關し、11月15日菊池花巻総務センター所長に要求書を提出し、交渉を行った。

菊池所長から「庁舎管理者としてできる限りの検討をし、できることから改善」との姿勢を引き出した。また11月14日には小田島遠野土木センター所長にも要求書を提出・改善を求めた。

【一関支部】

11月19日、執務環境改善等を柱とする独自要求書を鈴木一関総務センター所長に提出し、交渉を行った。鈴木所長は「衛生委員会でする優先順位の高い順で計画的に修繕」との姿勢を示すも、多くの課題が継続となったことから、一層の改善対応を要請した。

過去を学び、今を考え、未来へ活動を

第20回アウシュビッツを訪ねる平和の旅に参加して

県職労書記次長 佐々木 辰 治

【おわりに】

今回の旅では、他にいくつもの強制収容所や博物館などを訪れましたが、そこには、地元のみならず世界から、そして子どもから大人まで世代を超えてたくさんの方々も訪れていました。戦後40年を迎えた85年5月8日、ドイツのヴァイゼッカー大統領は演説の中で「罪の有無、老幼いづれを

問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。全員が過去からの帰結に關わっており、過去に対する責任を負わされているのであります。(中略)過去に目を閉ざす者は結局のところ、現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」と述べ、過

去に対する国民の責任を訴えました。戦争の被害だけではなく、加害事実の両面の視点から、こうした施設を整備し残すことよって過去に目をそらす、当時起きた戦争の悲劇を学び後世に伝える、子どものころからきちんと歴史を学ぶ環境となっており、こういったことが大切だと思えました。今日の政府は戦争のできる国づくりとして憲法を改正しようとしていきます。このような悲劇を繰り返さない、日本を

戦争ができる国にしないために、これから日本を支える若い世代の人たちはもつと政治に対して関心を持っていかねばならないと感じました。

以上報告とします。長きにわたりご一読いただきありがとうございます。



平和友好祭運動発祥の地・エルベの誓い記念碑



▲鈴木一関総務センター所長に要求書を提出する佐々木支部長(左)



▲小田嶋遠野土木センター所長にも要求書を提出



▲18確定での11.7総務部長交渉 佐藤総務部長



▲反核平和の火リレー



▲新採加入促進・4.11ガイダンス



▲第89回県中央メデー



▲土木協・県土整備部と交渉



▲青年婦人部の「春の交流会」



▲第89回県中央メデー



▲県庁・盛岡18年の躍進旗開き



及川博枝さん

産休代替職員として及川博枝さんを採用。支店業務を担って頂いています。よろしくお祈りします。



▲県職労・達増知事と面談



▲安倍9条改憲NO! 3000万人署名達成求め行われた「憲法集会」



▲越年となった「退手引き下げ阻止」総務部長交渉 ▲佐藤総務部長

年末・年始の事故等には十分お気をつけてください

寒さが厳しい冬期の外出では、路面凍結等もあり、車の運転には十分に気をつけなければなりません。

また、年末・年始の休暇は帰省・旅行・レジャーなど出かける機会が増えたり、雪道に慣れていない県外からの車両が多くなったり、いつにも増して注意が必要です。

万が一の事故の際は自治労マイカー共済の緊急連絡先へ!

◆マイカー共済事故受付センター◆

フリーダイヤル 0120-0889-24

◆自治労マイカー共済ロードサービス◆

フリーダイヤル 0120-889-376